

立命館經濟學

第二卷 第五号

昭和二十八年十月

内 容

論 説

- 諸商品集成の感性的直観（その一）……………梯 明 秀（1）
〔資本論冒頭文節の体系的意味〕の第三章として……
- 利潤と人民の生活との対照関係……………阿 部 矢 二（31）
- 我國近世の經濟思想（下）……………淡 川 康 一（48）
大田教授の近著を中心として……

研 究

- ヒックスにおける代替補充概念の吟味……………山 田 邦 臣（73）
——「連関財に関する」考察(等)——

講 座

- 剰余価値説の成立過程(一)……………松 田 弘 三（95）

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

論説

・ 我国近世の経済思想(上)

——大山教授の近著を中心として——

淡川康一

研究

封建体制崩壊に関する一考察

——畿内在郷商人の存在形態を中心に——

足立政男

棚卸資産評価について

——現行税法をめぐって——

寺島平

税務会計上の一考察

——ディダックションを中心として——

高尾忠男

講座

任意標本調査法(三)

関弥三郎

紹介

C・S・ソロー・「資本主義過程に

おける革新」

——シユムベーター理論の批判——

浜崎正規

発行所

立命館大学人文科学研究所

論説

危機に立つ反独占政策

井上巖次郎

わが国労働関係の特質(一)

——そこにおける封建性の根強き残存——

大山敷太郎

ルネサンス・レフォルマチオン

高橋良三

研究

利子生み資本の変容

——近代的銀行業の成立をめぐって——

小牧聖徳

「企業者」と資本主義過程の「革新」について

——シユムベーター学説の主要問題——

浜崎正規

講座

任意標本調査法(四)

関弥三郎

発行所

立命館大学人文科学研究所